

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「AYA 世代がん患者の妊孕性温存に関する研究」

研究分担者 鈴木 直 聖マリアンナ医科大学産婦人科学 教授

研究要旨：本研究班の目的は、わが国の思春期・若年成人(AYA)世代のがん医療の実態調査および関連情報の収集を行い、妊孕性温存について、学会・団体と連携して総合的に現状を分析し、この世代の特徴に配慮したがん対策のあるべき姿を具体的に政策提言し、診療・支援のツール開発やガイドラインの作成を行うことである。具体的に妊孕性温存に関しては、我々生殖小班による実態調査、ならびに地域完結型連携体制構築及びマニュアル作成による生殖医療の普及啓発を行う。本年度は、がん・生殖医療連携ネットワークの構築に向けた情報収集ならびに海外への発信を重点的に担当した。

A．研究目的

AYA 世代 小児・若年成人：adolescence and young adult）のがん患者に対する妊孕性温存に関する諸問題を解決するためには、多くの職種の専門家が一堂に会してその問題点を共有するだけでなく、新しい医療技術の安全性と有効性を十分に理解する必要がある。本邦の現状では、2012年に特定非営利活動法人日本がん・生殖医療研究会（現学会）が設立されて以来、本領域に関する議論が「乳がん領域」を皮切りに徐々に展開されつつあるが、がん治療を行う主治医と、妊孕性温存治療を行う産婦人科医との医療連携が未だ十分ではない。そこで、本生殖小班の研究目的の一つとして、AYA 世代がん患者の妊孕性温存に関して、がん・生殖医療地域連携ネットワーク構築およびそのマニュアル作りにある。

B．研究方法

第54回日本癌治療学会学術集会に参加し、学術集会にて取り上げられた「小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成のためのコンセンサスミーティング」に参加した。また、第34回日本受精着床学会総会・学術集会に参加し、Oncofertilityに関するセッションに参画した。一方、特定非営利活動法人日本がん・生殖医療学会 web site 内の医療連携に関するページを参考に、特定非営利活動法人日本がん・生殖医療学会協力の下、本生殖小班の「がん・生殖医療地域連携ネットワーク web site」立ち上げを昨年度行っているが、その内容の更新を検討した。また、研究分担者 古井辰郎医師が主催した「JSFP-がん・生殖医療連携会議（Oncofertility Consortium JAPAN 2016 準備会議）」に参加した。さらに、本研究費は充当していないが、厚労科研「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」（研究代表者：堀部敬三）「若年乳がん

患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築」（研究代表者：鈴木直）の一環で、「がん・生殖医療連携の全国展開」をテーマとして、各地域や各分野のがん・生殖医療の専門家、実務者の先生方とともに、現在の問題点や課題、今後の方向性などをディスカッションすることを目的として、「厚生労働省科学研究（がん対策研究）推進事業：Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016- 地域完結医療連携モデルの全国展開およびがん・生殖医療における心理支援体制の構築」に関する対がん協会の研修会を、日本がん・生殖医療学会（理事長は研究分担者 鈴木直）と共催で開催した。なお、本邦におけるがん・生殖医療の現状（連携ネットワークの情報を含む）を、Future Oncology 誌の REVIEW 論文として(Oncofertility in Japan: advances in research and roles of oncofertility consortia. Future Oncology 2016)に投稿した。さらに、Oncofertility Consortium（米国 Teresa Woodruff 博士代表）主催の Virtual Grand Rounds on March 15 at 9am Chicago time にて講演し（ネット講演）、本研究班の取り組みに関して報告した。

C．研究結果

第54回日本癌治療学会学術集会にて取り上げられた「小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成のためのコンセンサスミーティング」に参加した結果、現在作成中の日本癌治療学会の妊孕性温存に関するガイドライン内容の現状を把握することができた。また、第34回日本受精着床学会総会・学術集会に参加し、Oncofertilityに関するセッションに参画した。6施設からの発表には、施設のがん・生殖医療に関する取り組みや性腺組織凍結の経験について、また遺伝カウンセリングからセクシャリティーの話題など多岐にわたる話題が報告された。また、研究分担者 古井辰郎

医師が主催した「JSFP-がん・生殖医療連携会議（Oncofertility Consortiu JAPAN 2016準備会議）」において、「地域完結型がん・生殖医療の全国展開について」に関する報告を行った。

D. 考察

日本癌治療学会が作成している「小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存の診療に関するガイドライン」が刊行されることによって、がん・生殖医療の認知度がさらに上昇し、がん・生殖医療連携ネットワークのさらなる推進に繋がるものと期待された。また、「厚生労働省科学研究（がん対策研究）推進事業：Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016- 地域完結医療連携モデルの全国展開およびがん・生殖医療における心理支援体制の構築」に関する研修会の成果として、今後のさらなる本領域の発展に向けた方向性が明らかになった。

E. 結論

依然として、各地域で完結できるがん・生殖医療に関する医療連携ネットワークの全国展開の必要性がある。また、ネットワークをマネジメントする上で、ナビゲータ（相談員）の何よりも、がん・生殖医療連携を患者に円滑に提供できるナビゲータの育成が喫緊の課題である。

G. 研究発表

1. 論文発表

Ataman LM, Rodrigues JK, Marinho RM, Caetano JP, Chehin MB, Alves da Motta EL, Serafini P, Suzuki N, Furui T, Takae S, Sugishita Y, Morishige KI, Almeida-Santos T, Melo C, Buzaglio K, Irwin K, Wallace WH, Anderson RA, Mitchell RT, Telfer EE, Adiga SK, Anazodo A, Stern C, Sullivan E, Jayasinghe Y, Orme L, Cohn R, McLachlan R, Deans R, Agresta F, Gerstl B, Ledger WL, Robker RL, de Meneses E Silva JM, Silva LH, Lunardi FO, Lee JR, Suh CS, De Vos M, Van Moer E, Stoop D, Vloeberghs V, Smits J, Tournaye H, Wildt L, Winkler-Crepaz K, Andersen CY, Smith BM, Smith K, Woodruff TK. Creating a Global Community of Practice for Oncofertility. *Journal of Global Oncology*, 2016; 2(2): 83-96.

Miyoshi Y, Yorifuji T, Horikawa R, Takahashi I, Nagasaki K, Ishiguro H, Fujiwara I, Ito J, Oba M, Kawamoto H, Fujisaki H, Kato M, Shimizu C, Kato T, Matsumoto K, Sago H, Takimoto T, Okada H, Suzuki N, Yokoya S, Ogata T, Ozono K. Gonadal function, fertility, and reproductive medicine in childhood and adolescent cancer patients: a national survey of Japanese pediatric endocrinologists, *Clinical Pediatric Endocrinology*, 2016; 25(2): 45-57.

K.Kamoshita, N.Okamoto, M.Nakajima, T. Haino, K.Sugimoto, A. Okamoto, Y. Sugishita, N. Suzuki.

ki. Investigation of in vitro parameters and fertility of mouse ovary after storage at an optimal temperature and duration for transportation, *Human Reproduction*, 2016; 31(4): 774-781.

杉本公平, 稲川早苗, 白石絵莉子, 鴨下桂子, 伊藤由紀, 加藤淳子, 拝野貴之, 岡本愛光, 鈴木直. がん・生殖医療におけるサイコソーシャルケア体制の展望～Oncofertility Consortiumでのインタビューレポート～, *日本生殖心理学会誌*, 2016; 2(1): 13-16.

Ito Y, Shiraishi E, Kato A, Haino T, Sugimoto K, Okamoto A, Suzuki N. The Utility of Decision Trees in Oncofertility Care in Japan, *J Adolescent Young Adult Oncol*, 2016.

Takae S, Tsukada K, Sato Y, Okamoto N, Kawahara T, Suzuki N. Accuracy and safety verification of ovarian reserve assessment technique for ovarian tissue transplantation using optical coherence tomography in mice ovary., *Scientific Reports*, Published: 08 March 2017.

Suzuki N. Oncofertility in Japan: advances in research and the roles of oncofertility consortia, *Future Oncol*, 2016; 12(20): 2307-11. doi: 10.2217/fon-2016-0187. Review.

2. 学会発表

Suzuki N. Ovarian tissue cryopreservation, The 6th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction; Jakarta, Indonesia; 2016年4月.

鈴木直. ケースカンファレンス「妊孕性について」, 第24回日本乳癌学会学術総会; 2016年6月.

鈴木直. AYA世代がん患者の妊孕性温存に関する意思決定支援 若年乳がん患者に対する心理支援の構築を目指して, 第21回日本緩和医療学会学術大会; 2016年6月.

Suzuki N. Current topics of ovarian tissue vitrification and transplantation, The 3rd Korean Society for Fertility Preservation; Seoul, Korea; Jun 2016.

Suzuki N. Basics of fertility preservation for young cancer patients, The 3rd Korean Society for Fertility Preservation; Seoul, Korea; Jun 2016.

Suzuki N. Ovarian tissue vitrification, 10th Anniversary ISFP-BOD meeting; Israel; 2016年9月.

Suzuki N. Recent topics of ovarian tissue cryopreservation using vitrification on fertility preservation for young cancer patients, 2016 ART WORLD CONGRESS; NewYork, USA; Oct 2016.

鈴木直. がん・清書機料の背景ーガイドラインの必要性、また、海外の動向を含めー, 第54回日本癌治療学会学術集会; 2016年10月.

鈴木直. 若年がん患者に対する妊孕性温存の現状ーがん・生殖医療の実践を目指して, 日本臨床腫瘍薬学会 ブラッシュアップセミナー2016東京; 2016年10月.

Suzuki N. Ovarian tissue cryopreservation and transplantation- a new technology for fertility preservation, The 32nd International Kumamoto Medical Bioscience Symposium; Kumamoto Japan; Nov 2016.

Suzuki N. Fertility Preservation for young female cancer patients-recent topics on ovarian tissue cryopreservation and transplantation, ASGO The 4th International Workshop on Gynecologic Oncology; Miyagi Japan; Nov 2016.

Suzuki N. The value of ovarian tissue frozen and transplantation in fertility preservation and the application situation in the asia-pacific region, The third international summit forum of premature ovarian failure and preservation of ovarian function; Shanghai, China; Nov 2016.

鈴木直. Oncofertility-本邦の潮流とこれから, 0

ncofertilityーがん患者の生殖看護を考えるー; 2016年12月.

Suzuki N. Updates from the Japan Society for Fertility Preservation (JSFP), Oncofertility Consortium Virtual Grand Rounds; U.S.A; Mar 2017.

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし